

カリキュラム(ひな形)

機構施設名：沖縄職業能力開発促進センター
実施機関名：(一社)中部産業連盟

B.生涯キャリア形成		作業手順の作成によるノウハウの継承	
コースのねらい		後輩従業員のノウハウの継承を目指して、中堅・ベテラン従業員の作業の見える化を行い後輩従業員が習得すべき作業手順の作成に係る知識と技能を習得する。	
講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間
	1 ■ ナレッジマネジメント	(1) ナレッジマネジメントとは 従業員が蓄積してきた知識やノウハウの活かし方をSECIモデルの観点から分かりやすく解説する ・SECIモデル(共同化・表出化・連結化・内面化) ・技術と技能 (2) 技能伝承の重要性 なぜ今、技能伝承が必要なのか、なぜ今、技能伝承がなされにくいのかを外部環境・内部環境の両面から考察するとともに、今後の方向性の認識を高める ・暗黙知と形式知 ・4Mと3H	1.5
	2 ■ 作業分解	(1) 作業分解とは 作業手順書は、どのような粒度で書き表すかがポイントとなる ここでは作業分解の視点から、適切に作業を区切ることを学ぶ ・作業分解について ・作業分解の大きさの決め方 (2) 作業分解シート ・作業分解シートの作成	2.0
	3 ■ 作業手順の作成	(1) 作業手順書 作業手順書の目的や使途について解説し、いくつかの事例を紹介する ・作業手順書の目的と押さえどころ (2) 作業手順書に必要な要件 製造業の作業手順書の場合、QC工程図とチェックシートとの連携の重要性を解説。なお受講者が製造業以外の産業であれば、極力それに合わせた解説を工夫する (3) 作業手順書作成のコツ ・見やすい作業手順書の作り方 (4) 作業手順書の作成演習 ・題材は当日発表 (5) 技能伝承のための仕事の教え方 ・仕事を教える4つのステップ ・技能の伝承 ・まとめとグループ討議	2.5
			合計時間 6.0

カリキュラム作成のポイント

一方的な講義でなく、ワークや演習を多用し、楽しく学べる講座を指向。まず作業手順書を作成する上で「必ず押さえておくべき内容」を解説。次に課題を提供し、実際に作業手順書(作業分解シート)を各自で作成してもらう。なお技能伝承は作業手順書を作成したのち、これを用いて相手にわかりやすく、かつ、確実に伝えることで初めて伝わるものであるため、仕事の「教え方」を解説し、実際にこれを演習で体験し習得する、という構成にしている